

# Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／酒井 撰 撮影／平尾健太郎

## 神田外語大学 学長 酒井邦弥



### 開学以来のアジア、イベロアメリカ研究、 「英語＋専攻言語」を強みに、 卒業生がグローバルに活躍

# 「未

来の当たり前を、今実行する」。神田外語大学はこの

姿勢を開学以来貫いてきました。海外に目を向ければ、アジア、そしてイベロアメリカ地域の動向に世界中から熱い視線が注がれています。劇的な変貌を遂げた中国・韓国はもとより、急成長するASEAN諸国を含むアジア全体で40億人の巨大市場が誕生しようとしています。この新たな潮流こそ、アジアの一員である私たちにあって、大きなチャンスにはかなりません。

神田外語大学はいち早くアジア地域に着目し、1987年の開学時より同地域の言語と文化を主専攻として取り入れ、研究を重ねてきました。現地の大学や企業、行政機関ともネット

トワークを築き、現在、アジア各地をフィールドとする卒業生たちが、意欲的に新市場を切り開いています。

本学の特徴の一つに、卒業後、国内の企業で働くキャリアパスではなく、海外で就職する「世界就職」を選ぶ学生も数多くいることが挙げられます。こうしたチャレンジ精神あふれる人財を輩出する背景には、専攻語に加えて、English Onlyの授業や施設で、「国際共通語としての英語」の運用能力を徹底して鍛える充実した教育環境があります。

さらに学内には、中国、韓国、インドネシア、ベトナム、タイ、スペイン、ブラジル、ポルトガルなど各専攻言語の国・地域の街並みを再現した施設、

MULTI (Multilingual Communication Center) があります。各国語が飛び交うなか、教員や留学生と交流し、語学とともに異文化コミュニケーションを全身で学ぶのです。本格的なアジア料理を提供する学生食堂「食神」も今春オープンしました。現地の家具・調度品で飾り、東南アジアに多いイスラム教徒にも配慮したメニューを提供するなど、「食」の教育施設になっています。

これらの取り組みは、多くの企業から評価をいただいています。2013年にはアジアでビジネスを拡大するイオングループと、国際社会で活躍する人財の育成を目指し産学連携のパートナーシップを結びました。また、14年には千葉工業大学と「大学間包括連携に関する協定」を締結。外語大学と工学系大学による包括協定は注目を集め、互いの強みを生かした相乗発展的な学生間の交流に、期待を寄せずにはられません。

多様なバックグラウンドをもつ人々が、地球という舞台上で活躍する究極の多様化社会の到来。「語学運用能力」と「異文化を理解する教養」をもち、グローバルに活躍できる人財の育成こそ、私たちの使命です。

【学長プロフィール】さかい・くにや●1944年生まれ。東京外国語大学ドイツ語学科卒業後、68年株式会社第一銀行入行。株式会社第一勧業銀行専務取締役、株式会社みずほホールディングス取締役副社長、国立大学法人東京外国語大学理事を経て、2010年より現職。

【大学プロフィール】1987年開学。外国語学部 英米語学科、アジア言語学科(中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻)、イベロアメリカ言語学科(スペイン語専攻、ブラジル・ポルトガル語専攻)、国際コミュニケーション学科(国際コミュニケーション専攻、国際ビジネスキャリア専攻)の1学部4学科。